令和４年度　授業改善推進プラン

大田区立徳持小学校

令和４年度　授業改善推進プラン　目次

学力向上を図るために　３

小中一貫授業改善プラン重点観点及び重点指導事項一覧（蓮沼中校区）
・・・　４

１　国　　語　・・・　５

２　社　　会　・・・　１０

３　算　　数　・・・　１４

４　理　　科　・・・　１８

５　外 国 語　・・・　２１

６　生　　活　・・・　２３

７　音　　楽　・・・　２４

８　図画工作　・・・　２６

９　家　　庭　・・・　２８

１０　体　　育　・・・　２９

令和４年度　学力向上を図るための全体計画　　大田区立徳持小学校

学校・地域の実態や願いなど
児童の実態
本校の教職員の願い
家庭・地域の実態
保護者の願い

学校の教育目標

○考える子　○やさしい子　○つよい子

教育関係法規など
日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
教育委員会の教育目標
東京都教育ビジョン
おおた教育ビジョン

学校経営方針（学力向上に関わる重点）
授業力向上の目指し、学び合い、高め合う授業の実践により、子供たちの思考力・判断力・表現力を育成する。
○主体的に学ぶ意欲の向上。
○基礎的、基本的な知識・技能の定着。
○課題解決に必要な思考力・判断力・表現力の育成。
・算数習熟度別指導の充実
・補習教室の実施
・校内研究の充実
・地域の教育力の導入

校内研究
主体的・対話的で
深い学びを目指した授業づくり
【目指す児童像】
自分の考えをもち、表現できる子

家庭、地域社会、他の学校や関連機関との連携
○家庭と協力して基本的生活習慣を身に付けさせる。
○地域の人々の協力を生かした教育活動を積極的に行う。

総合的な学習の時間の指導の重点
○自ら課題を見付け、自ら学び考え、判断し、解決する能力、態度を育成する。
○学び方やものの考え方を身に付け、探究活動等に主体的に取り組み、自己の生き方を考えることができる態度を養う。
○自然体験、ボランティア体験などを通して、自らを生かし、望ましい人間関係を育てる。
○情報や環境など、新しい社会的課題に気付き、積極的に関わろうとする意欲を育てる。

特別活動の指導の重点
○望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
○集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の重点
○ 郷土の特色(池上地区の特色)を活用した学習を通して、身近な地域への関心を高める。
○地域の人との交流を通して、人間尊重の精神や思いやりの心を育てる。

人間関係や環境の整備、生活指導、生活全般における指導の重点
○「徳持スタンダード」の徹底により、学校のきまりを理解し、基本的な生活習慣が定着できるようにする。
○相手の立場を思いやる心を育て、望ましい人間関係を育てる。
○安全な環境を整備するとともに正しい言語環境、信頼し合う人間関係を育てる。
○学校カウンセラーと連携・協力し教育相談の充実を図る。

各教科の指導の重点	
国語	各教科学習の基礎となる言語力の育成を図る。「話す・聞く姿勢」を徹底させ、話し合う力を育てる。また、読書活動を推進し、読む力を伸ばす。
社会	資料から必要な情報を集めて読み取り、社会的事象の意味等を解釈し、自分の考えをもつことで、他視点で公正に判断する能力や態度を養い、社会形成に参画する資質を育成する。
算数	数や図形の感覚を育てるために算数的活動を多く取り入れる。基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために、発達や学年の段階に応じたステップ学習による指導を充実させる。
理科	自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力をつける。自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。
生活	言語活動などを通して、人とかかわる楽しさが分かり、進んで交流できるようにする。活動や体験したことを言葉や絵で表す表現活動を一層重視する。
音楽	リズム、旋律、ハーモニーを大切にした学習を展開し、基本的な楽器の奏法や発声ができるようにする。
図工	絵の具、道具や工具等の基本的な扱い方を基礎力として身に付け、自分の思いを自由に表現できるようにする。
家庭	家庭生活の基礎となる生活技能を、体験活動を通して学ぶ。自らの課題達成のために進んで調べ、手順を考えたり、よりよく工夫したりできるようにする。
体育	体つくり運動などで基本的な動きや柔軟性を身に付ける。また、運動量を確保するとともに自らめあてをもち、励まし、学び合いながら学習できるようにする。
外国語	コミュニケーションの目的や場面を意識して活動を行う。英語の音声や語彙、表現などの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。

指導内容・指導方法	教育課程	研究・研修の工夫	評価の工夫	地域や家庭との連携
○学び合い、高め合う場面を設定することで、主体的に学ぶ意欲を高める。 ○教材研究の時間を確保し、指導を工夫して、よりわかる授業を行う。 ○算数ステップ学習や習熟度別指導、東京ベーシックドリルの活用など、個に応じた指導の充実を図る。 ○体験学習・問題解決学習を取り入れ、自ら課題を解決する力を育成する。 ○読書指導や言語活動を充実させ、各教科の基礎となる言語力を育成する。	○振替なしの土曜授業を年間９日実施し、学力向上のための時数を確保する。 ○土曜補習教室、学習カルテの活用により基礎・基本の力を定着させる。 ○読書週間、保護者による読み聞かせなどにより、読書活動を推進する。 ○全学年で外国語活動を実施し、国際理解教育を推進するとともに、言語に対する関心を高める。	○校内研究を授業力向上の場とする。全学年・専科教員で分科会を組織して、研究授業を行い、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを行う。また、学び合い、高め合いを重視した授業を行うことができるようにする。 ○区の教育研究会の各部会で授業研究を深めたり、外部の研修に参加したりして、指導力を高める。	○学習のねらいを明確にし、１時間ごとの評価を生かして学力の定着に努める。 ○学校公開での保護者アンケート、外部評価などにより、授業改善を行う。 ○学習効果測定の個人票を基に、学習の定着状況を振り返らせ、目標に向けて学習計画を見直すことができるように学習カウンセリングを行う。	○「徳持スタンダード」を配布し、家庭と協力して基礎・基本の定着のために取り組む。 ○国際理解、健康、キャリア、環境教育、地域学習など、地域の協力による体験や交流により学びを広げる。 ○徳持応援団（学校支援地域本部）により、漢字検定など、地域の人材を活用し、地域の教育力を組織化し、教育活動をさらに充実させる。

（様式）

小中一貫授業改善プラン　重点観点及び重点指導事項一覧（蓮沼中学校区）

令和４年度

国語科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	「読むこと」説明的な文章の読解 ・文章の構成や段落の役割 ・論理の展開（原因と結果，意見と根拠，具体と抽象など） ・図表の読み取り方（数値，変化，違いなど）		

社会科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・対話的な学びを妨げないＩＣＴの活用方法の検討。 ・社会参画意識を高める活動を取り入れた児童・生徒の思考力を高める授業の工夫。		

算数･数学科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・ICTを活用した演習量の確保に向けた活用法指導の充実 ・理解度の把握を目的としたノート点検の実施 ・文章題における状況把握能力、表現能力の育成		

理科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・実験、観察に関して、予想を立てる、考察をするなどの活動形態の工夫（個人活動、班活動単位）		

音楽科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図を伝えあう活動の工夫。 ・音楽を表現していく経験の積み重ね。		

図画工作･美術科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	作品や材料との対話、生徒のグループによる対話活動を通して、思考力や表現力を高める指導の工夫。		

保健体育科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点	◎		
重点指導事項	運動の苦手な児童・生徒が好きにさせる指導の工夫。		

技術･家庭科

	観点別		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点		◎	
重点指導事項	・授業の中で学んだことを生活の中に活かし、工夫して作品を作る。		

外国語科（英語）

	観点別　（指導要録に記載されているもの）		
小学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
中学校	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
重点観点			◎
重点指導事項	・コミュニケーション活動を通して、相手が伝えたいことを理解しようとする態度の育成。 ・習った表現を使い、自分の考えや思いを伝えようとする態度の育成。		

国　語　科

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）成果

・校内平均正答率が概ね目標値を上回っている。

・「基礎」においては全学年目標値を上回っている。

・ローマ字表記については、ICT 機器活用の効果により目標値を大きく上回った。

（２）課題

・どの学年においても、自分の考えを表現することを苦手としている。例示を示したり、友達のよい点を取り入れたりしながら、発表や交流の機会を設けていく。

・「書くこと」が苦手な傾向にある。自分の考えや思いを書くことに対しての抵抗を減らすために、日常的に慣れていく必要がある。着目すべき視点を明確にして、文章構成や表現について指導していく。

・語彙理解が不十分である。児童が主体的に言葉に関心を持って学習に取り組むことができるようにしたい。読書活動や辞書を用いての調べ活動、言葉と経験とを結び付けていく学習を取り入れていく。

2　大田区学習効果測定の結果分析

（１）達成率（経年変化）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第４学年	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。		
第５学年	・「基礎」の校内平均正答率は、目標値と区平均値を上回っている。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。	
第６学年	・基礎、活用共には目標値を上回っているが、区平均正答率は下回っている。	・教科全体、基礎は目標値を上回っているが、活用については、下回っている。また、区平均正答率を共に下回っている。	・基礎、活用共に目標値を上回っているが、区平均正答率は下回っている。

（２）分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第４学年	・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・漢字や言葉の内容はおおむね定着している。特にローマ字は、目標値を大きく上回っている。これは、タブレット活用によるローマ字入力の効果であると考える。	・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・「読むこと」の領域で、内容を十分に読み取ることができている。	・校内平均正答率と、目標値がほぼ同等。 ・自分の考えを明確にし、内容の中心を明確にし、文章を書くことができている。
高学年	第５学年	・「言葉」の既習内容の漢字の読み書きについては、概ね定着している。 ・連用修飾語の理解や指示語の役割など「言葉」の文法について、苦手な傾向がみられる。	・「話すこと・聞くこと」では、話合いの内容について相違点や共通点を考えながら聞き、内容をまとめることが苦手な傾向である。 ・「読むこと」では、物語の登場人物の様子や情景など参考にして、気持ちを読み取ることができる。 ・「書くこと」では、決められた文字数で、根拠を明確にした自分の考えを書くことが苦手である。	・自らの伝えたいことが伝わる様、根拠を明確にしたり、事例をあげたりするなど、文章の構成を工夫して書くことが苦手である。
	第６学年	・全国や区の平均正答率より上回っている。「漢字を書く」、学習が全国平均より下回っている。漢字を読むことはできるが、書くことが苦手な児童が多い傾向が見られる。	・全国や区の平均正答率より下回っている。中でも、「書くこと」「話し合いをもとに活動報告を書き直す」学習が全国平均より下回っている。 ・自分の意見を明確にして書いたり、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることが難しい児童がいる。	・全国や区の平均正答率より下回っている。 ・学習に対してめあてや課題を設定したり、設定したことに対して振り返りを行ったりすることが苦手な傾向がある。

３　授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第１学年	・語彙を増やす。そのために読書をする時間をとる。言葉の意味を動作化したり具体物を提示したりして説明する。 ・物語や説明文などの文章を正しく読み取る。そのために、音読の時間を十分に取る。 ・学習の基本となるひらがな・がたかな・漢字の正しい書き順を身に付けさせる。	・自分の考えを言葉で表現する。そのために大事な言葉を書き抜いたり、話型を掲示したりする。話合い活動の機会を設けたり、必要に応じ話型を掲示したりする。 ・自分の考えをもって対話をすることで、互いの感想を伝え合い、互いの考えを共感できるようにする。	・読書が楽しいと感じられるように、図書の時間に読書学習司書による読み聞かせを行う。また学習単元に関係する内容の本を集め、手に取れるようにして紹介する。 ・学習したことを他教科や生活に生かせるように各単元で他教科と横断的な指導ができるように指導計画を立てる。
	第２学年	・語彙をふやすために、教科書「ことばのたからばこ」を活用する。 ・正しい漢字の書き方を定着させるために、小テストや漢字ドリルを計画的に活用する。 ・文章表現をする上での基本を丁寧に指導する。	・「順序を表す言葉」を使って、分かりやすく表現する習慣を付ける。 ・友達の考えを聞き、自分の考えや感想を伝えられるように話型を提示したり、良い手本を示したりする。	・読書に関心がもてるように、図書の時間に読み聞かせをする。 ・自分の気持ちや思いを表現する活動を多く設定して慣れさせる。
中学年	第３学年	・新出漢字を使用した熟語や文例を考えることで、漢字の定着と語彙の拡充を図る。 ・書いたり話したりする場面で、国語辞典を活用して語彙を増やし、使えるようにする。 ・主語・述語の関係や指示語など、言葉の特徴や使い方について繰り返し、指導を行う。	・話の中心を明確にして話したり、話の要点を意識してメモを取って聞いたりすることで、自分の考えを伝え合うことができるようにする。 ・自分の考えとその理由や事例を明らかにして話題を設定し、書き方を共有することで相手に伝わりやすい文章が書けるようにする。	・相手や目的を明確にした課題を設定し、主体的に学習に取り組めるような学習課題や学習計画を児童と共に立てる。 ・読書週間を活用し、様々なジャンルの本に触れることができるようにする。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第４学年	・自分の考えの基になった叙述や表現に印をつけたりメモしたりすることで、自分の考えを支える理由を話したり書いたりできるようにしていく。 ・国語辞典を他教科においても意識的に活用できるようにし、辞典の使い方に慣れるとともに、語彙を広げていくことができるようにする。 ・毎日の漢字学習、週１回の漢字小テストを実施し、繰り返し書くことで定着を図る。	・抽象と具体の違いを単語から文章へ応用し、明確に捉えられるようにする。 ・書こうとすることの中心を考え、段落相互の関係に注意して文章を書くことができるよう指導する。「はじめ・中・終わり」の文章構成を意識して書くことができるようにする。	・話を聞く時に話す人の方を向くことを徹底し、聞く姿勢を身に付けさせる。 ・聞き手を意識して話す順序を考えたり、文章に表したりするなどして、聞き手に分かるように話すことができるようにする。
高学年	第５学年	・「書くこと」を通して、既習した漢字や文法などをしっかりと定着させていく。 ・教科に関係なく、文章の構成についてしっかりと把握させ、誤読なく、文章を読むことができるようにする。	・「話すこと・聞くこと」では、交流を通して、友達の伝えたいことと自分の考えの共通点や差異点を考えながら聞き、自分の考えを再構築する授業の展開を行う。 ・「読むこと」では、叙述を基に登場人物の心情を考えさせ、交流を通して、多くの考えに触れることで、より広がり、深まった自分の考えを再構築させるようにする。 ・「書くこと」では、いろいろな資料から読み取ったことなどを、根拠にすることで、説得力のある自分の考えをもつことができるようにする。	・個々が教科の「見方・考え方」を発揮できるよう、「見方・考え方」の把握、そして、振り返りの仕方を適宜指導していく。 ・振り返りを行うことで、個々が主体的に次時のめあてを立て、自らの学習を俯瞰して見ることができるようにする。 ・振り返りの観点を明確にすることで、自らの学習状況にあった学習を取り組む手立てとする。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	第6学年	・漢字の「読む」だけでなく、「書く」学習にも重点を置き、漢字学習の際、繰り返し学習を行う。タブレットを使うことが増え、自分で漢字を思い出すことが減っている傾向にあるので、他教科も含めて書いたり、まとめたりする学習を取り入れる。 ・前学年までに学習した「主語・述語」の関係や、「指示語」の示すものを適切に選択できるよう日常的に指導を行う。	・説明的文章では、文章から筆者の主張が書かれているところを探し、文章内容を適切に捉えられるようにする。 ・「書くこと」の学習では、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりできるよう、作文など書く学習活動を増やしたり、読み合ったりすることで文章に触れる機会を増やしていく。	・課題を自ら設定し、それに向けて自ら調整を行い、粘り強く学習に取り組めるような単元設定を行う。また、児童が自己の学習について見つめられるように、単元の終わりに毎回振り返りの視点を設けたりする。

社　会　科

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）成果

・４年生では、写真、図、表などを児童用にも配布して、関連付けて思考判断できるようにしたことで、活用の正答率が上がった。

・５年生では、資料から何が読み取れるのか個人で確認し、さらに学級で話し合う機会を設けたことで、資料活用の力が身に付いた。

・６年生においては、写真や図、グラフから読み取れる事実を一つずつ確認していき、「なぜこのようなもの（人）があるのか」など問いかけ、因果関係を読み取るきっかけをつくったことで、社会的事象の基礎が身に付いた。

（２）課題

・引き続き学習の段階と学習のめあてを明示し、学習の進め方を身に付けさせる。

・日常生活での取り組みを振り返り、その目的や取り組む理由を判断、表現することが苦手である。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）達成率（経年変化）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第４学年	・校内正答率は、目標値を下回った。領域別正答率では、１２項目中８項目で目標値を下回った。		
第５学年	・校内正答率は全ての領域において、目標値と区正答率を上回った。	・校内平均正答率（基礎）が、目標値を下回った。校内平均正答率（活用）が、上回った。	
第６学年	・校内正答率は、１４項目の問題で、目標値を下回っており、学習の定着が不十分と考える。	・教科全体、基礎、活用共に目標値と区平均正答率を若干下回っている。	・基礎は目標値を上回っているが、活用にいたっては、目標値を下回っている。

（２）分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第４学年	・地図記号や方位についての知識の定着が不十分である。 ・働く人の仕事や工夫について理解でつまずきが多く見られた。	・警察・消防については、施設配置、緊急時の備えや対応についての捉え・判断力が乏しい。 ・販売工夫やそれらに携わっている人々の仕事の工夫を捉え表現することに課題がある。	・安全なくらしについて、資料に着目しながら、社会的事象と関連付けて選択・判断することが苦手である。
高学年	第５学年	・表やグラフなどの資料から、学習課題に即した内容を読み取ることが若干難しい。	・既習事項やグラフなどの資料を基にして、学習課題に即した内容を読み、それを基にして、自らの考えをもったり、表現したりすることが苦手である。 ・社会的事象の共通点や差異点を整理し、自分の考えや根拠を明確に表現することが苦手である。	・日常生活での取り組みを振り返り、その目的や取り組む理由を判断、表現することが苦手である。 ・資料から読み取ったことと自らの生活を照らし合わせ、根拠を基に、自らの考えを構成することが苦手である。
	第６学年	・世界の中の国土や、工業生産、自然環境と国民生産について問われる問題については正答率が目標値よりも低い。 ・資料に着目してその背景を捉え、判断することに課題がある。	・目標値は上回っているが、区や全国の平均より下回っている。 ・それぞれの場所で働く人々や施設の工夫に課題がある。 ・まちの様子について、既存の知識を活用して読み取ることに課題がある。	・目標値は上回っているが、区や全国の平均より下回っている。 ・地図記号や方位の知識をもとに地域の様子を読み取り、考察を行うことに課題がある。

３　授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第３学年	・資料や地図帳から情報を読み取る機会を意図的に設定し、学習に取り組み、必要な情報を読み取れるようにする。 ・ICT を活用して、地図記号クイズ等に取り組み、知識の定着を図る。	・調べた課題に対し、自分の意見をもつとともに、友達と意見を交流し、地域の社会的事象の意味を考えさせる。 ・学習問題に対するまとめや新聞づくりを通して、考えたことを表現させる。	・学習の進め方を定着させ、学習問題に対して、予想や見通しをもち、調べる学習を行う。
	第４学年	・地図などの資料で調べ、白地図等にまとめたり、地域の様子を文章で記述したりすることで知識を定着させていくようにする。 ・生産・販売の仕事については、見学・調査等で調べ、仕事の工夫や消費者の願いに着目して考えをまとめていく。	・社会的事象の見方・考え方を働かせるため、どこにどのような施設・設備があるのか、どのように連携・協力して火事や事故に対応しているのかを実際に調べたりインタビューしたりする機会を設ける。	・自分の経験や知識から予想を立て、学習計画を立てたり見直したりして、主体的に学習問題を追究し解決できるようにしていく。 ・学習したことを社会生活に活かしていけるようにする。
高学年	第５学年	・教科の「見方・考え方」をはたらかせ、グラフや表などの資料から、学習課題に基づいた内容を読み取る活動を取り入れていく。 ・地名や都市名など、既習内容の定着を図った学習課題を設定する授業を行う。	・既習事項やグラフなどの資料から課題に沿った内容を読み取る活動を適宜取り入れ、それを基にして、明確な根拠のある自らの考えを表現する学習活動を行う。 ・資料を伴う学習や友達との交流で、自らの考えを広げたり、深めたりすることができる学習展開を計画する。	・個々が教科の「見方・考え方」を発揮できるよう、「見方・考え方」の把握、そして、振り返りの仕方を適宜指導していく。 ・振り返りを行うことで、個々が主体的に次時のめあてを立て、自らの学習を俯瞰して見ることができるようにする。 ・振り返りの観点を明確にすることで、自らの学習状況にあった学習を取り組む手立てとする。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	第６学年	・資料の読み取り、考察することに課題がある。資料から「読み取ったこと」「そこから自分が考えたこと」を分けてノートに書くように指導を行う。 ・基礎的な知識を付けるためにミニテストを定期的に行う。	・絵地図や、写真・イラストに示された情報を読み取るために、資料を読み取る時の視点をおさえる。（時間、空間、人、物、どんな様子か等） ・働く人々の仕事や工夫はどのようなものがあるのか考察するために何人かで話し合いをする時間を設ける。	・地図記号や方位の知識、に関して課題が残る。フラッシュカードやパワーポイント等を活用して授業の導入３分程度で毎時間繰り返し復習を行う。

算　数　科

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）成果

・授業や日々の課題を通して、四則計算に関する技能の定着が見られた。

・基礎的な技能の定着により、様々な問題解決に身に付いた知識や技能を活用させることができ始めた。

・日常の授業の工夫や補習教室での取り組みの結果が出始めた。

（２）課題

・身に付いた知識や技能を活用して考えたことを、友達にわかるように表現する力を向上させるように授業を工夫する必要がある。

・主体的に学習に取り組むことができるように、自らの学習を俯瞰して見ることを習慣づけする必要がある。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）達成率（経年変化）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第４学年	・校内正答率が、基礎、活用共に目標値を上回っていた。		
第５学年	・活用については、校内正答率は、目標値と区正答率を上回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。	
第６学年	・基礎、活用ともに目標値より上回っている。 ・基礎は区の平均より上回っているが、活用は区の平均と同等である。 ・基礎、活用ともに全国平均より下回っている。	・基礎、活用ともに目標値より上回っている。 ・基礎、活用ともに区の平均より下回っている。 ・基礎に関しては全国平均より下回っていて、活用に関しては上回っている。	・基礎は目標値と同じ数値で、活用は目標値より上回っていた。 ・基礎、活用ともに、区の平均より下回っていた。

（２）分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第４学年	・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・わり算の余りありの計算の誤答が多く見られた。	・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・どの問題内容においても、概ね目標値を上回っていた。	・校内平均正答率が、目標値を上回った。 ・概ね目標値を上回っているが、学習理解や授業態度の二極化の防止に努めていく必要がある。
高学年	第５学年	・数直線上に示された分数を読み取ることが弱い。 ・身近にあるものの面積を求めることが難しい。 ・序数と余りの関係を正しく理解していない傾向がある。	・分数、整数を大小順に並べ替えることができる。 ・折れ線グラフと表を読み取ることができるが、読み取った内容を活用することが難しい。 ・推測する必要がある、身近にあるものの面積を求めることが難しい。	・二次元の読み方を全体的に理解しているが、その内容を基にした考えをもつことが難しい。 ・二次元表を読み取り、分類項目を見て、対象マスの意味について、２割程度の児童が説明できていない。
	第６学年	・目標値より上回っているが、全国の正答率より下回っている。 ・分数の計算についての理解に課題がある。 ・小数でわるわり算や小数をかけるかけ算の計算を苦手とする児童が多い。 ・三角柱の展開図をかくことを苦手とする児童が多い。 ・分数倍の図の意味を理解することができている。	・目標値より上回っているが、区や全国の正答率を下回っている。 ・比例・単位量あたりの大きさに課題がある。面積と人数の割合を求め、どこが混んでいるか考えるなど答えから事実を追究することが課題である。 ・立方体の体積を求める式や体積を求める式に合う図を理解している。	・目標値、区や全国の正答率を下回っている。 ・与えられた表のデータから割合を求めることができる。 ・平均や百分率の文章問題の立式に課題がある。 ・底辺と高さが等しければ、どんな三角形も等しい面積になることを説明することを苦手とする児童が多い。

３　授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第１学年	・たし算やひき算の計算力を定着させるために、練習時間を十分に確保し、プリントや計算カードを使って反復練習に取り組む。	・自分の考えを相手に分かりやすく説明する。図・具体物の操作を用いながら根拠を明確にして話すようにする。	・学習意欲をもたせるために、身近な日常生活の場面を問題の題材として取り上げる。
	第２学年	・計算カードやプリント、ドリル、タブレットのアプリなどを活用して、繰り返し練習して定着を図る。 ・時刻や時間、長さやかさについては、日常的に取り上げて慣れ親しむようにする。	・自分の考えを図・絵、言葉で説明する機会を増やし、考えを深める。 ・文章題では演算決定のキーワードに着目させ、そこから立式できるよう声掛けをする。	・具体物を活用するなど、興味・関心がもてるようにする。 ・日常生活の中で、大きな数や、長さ、水のかさなど単位に着目して、関心がもてるようにする。
中学年	第３学年	・数量関係や図形に関わる事柄を児童に問い、日常生活に置き換え、理解を深めさせる。 ・計算の意味や仕方を言葉や数、式、図を用いて説明できるようにする。	・授業の中で、文章問題の読み方や解き方を図式化して丁寧に指導する。 ・文章中から分かっていること、求めることに注目させ、正しく立式できるようにする。	・児童が授業を振り返り、まとめる時間を作る。 ・既習事項はタブレットを活用して復習させ、より深く理解に繋がるようにする。
	第４学年	・ICT 機器等を活用して作図の方法や分度器等の使い方を指導し、図形の構成や面積や角の測定を正しくできるようにする。 ・普段の授業で、文章問題の読み方や解き方を線分図、数直線等を活用して丁寧に指導する。	・交流の仕方に留意しながら、教え合ったり、ノートを見せ合ったりして、児童同士の交流の場面を増やす。 ・自身の考え方を全体発表、または小グループでの交流を通して、他者の考え方を解釈する時間を増やす。	・問題を解き終わった後、ペアで確認する時間を設ける。 ・見直しをすることの良さを実感させる。 ・学習内容に合わせた問題作りを自身で制作し、日常生活で活用できる場面と結び付ける。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	第５学年	・タブレットを有効に活用し、既習事項の確かめをさせる。 ・少人数習熟度別学習の利点を生かし、補習が必要な児童に対して単元末テストの直前等に補習を行う。	・授業の中で、自分の考えを交流する時間を十分に設ける。 ・友達の考えを聞いて、自らの考えに立ち返る時間も確保する。 ・学習したことを身の回りや、他教科の授業で生かすことができるのか考える時間を設ける。	・個々が教科の「見方・考え方」を発揮できるよう、「見方・考え方」の把握、そして、振り返りの仕方を適宜指導していく。 ・振り返りを行うことで、個々が主体的に次時のめあてを立て、自らの学習を俯瞰して見ることができるようにする。 ・振り返りの観点を明確にすることで、自らの学習状況にあった学習を取り組む手立てとする。
高学年	第６学年	・ドリルやタブレットドリルを用いて、計算や約数、倍数等繰り返し練習させる。 ・用語や公式を確実に用いることができるように繰り返し確認する。 ・小数でわるわり算、小数をかけるかけ算などの計算問題に授業の始めなどに定期的に取り組む。	・自分の考えを図や言葉、式で表し、友達に考えを説明する機会を増やす。 ・数直線等を用いて、自分の考えを説明する活動を増やす。 ・比例・単位量あたりの大きさを理解するため、社会科など他教科も横断して割合を求める機会を普段の授業から取り入れ、便利な表現であることに気付くようにする。	・間違えた問題を繰り返し解いたり問題を様々な方法で解いたりして、粘り強く学習に取り組ませる。 ・単位量あたりの大きさの考え方を、他教科や日常生活に生かすことにつなげられる活動を増やす。

理　　科

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）成果

・理科的な用語をおさえた指導、教科書の用語を使っての学習のまとめを行うことで、５年生において科学的事象に関する基礎知識が定着していた。

・５、６年生では、科学的事象が実感できる体験的な活動を行うことで児童の問題意識を高めてきた。それによって、主体的に実験や観察に取り組む様子が見られた。

（２）課題

・引き続き、科学的事象の因果関係や理科的な用語等の理解・定着を図ること。

・実験や観察の意義についての指導を徹底し、学習過程をユニバーサルデザイン化すること。各学年で働かせるべき理科的な考え方を児童におさえる。

・実験・観察で結果として認識したことと学習としてのつながり、学習内容と生活場面でのつながりが希薄であること。単元の導入や実験・観察やまとめの場面で、日常生活とのつながりを意識した授業づくりをする。

2　大田区学習効果測定の結果分析

（１）達成率（経年変化）

	令和４年度結果	令和３年度結果	令和２年度結果
第４学年	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を下回った。		
第５学年	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値と区正答率を上回った。	・校内平均正答率が、基礎、活用ともに目標値を上回った。	
第６学年	・校内平均正答率が、目標値、区平均、全国平均ともに下回った。 ・基礎は、目標値を下回ったものの、活用では、目標値を上回った。	・基礎は目標値を上回っているが、活用は下回っている。 ・区平均と比較しても、基礎は上回っているが、活用は下回っている。	・基礎は目標値を上回っていたが、活用は大幅に下回っていた。 ・どちらも区平均正答率を若干上回っていた。

（２）分析（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第４学年	・校内平均正答率が、目標値を下回った。 ・「植物の育ち方」では、花を咲かせたあとに実ができるといった育ち方が理解できていない。 ・「こん虫の体のつくり」では、腹の位置が理解できていない。 ・	・校内平均正答率が、目標値を下回った。 ・「こん虫の体のつくり」では、不完全変態の昆虫を指摘することができず、正しく分類することができなかった。	・校内平均正答率が、目標値を下回った。 ・「ものの重さ」では、体重計の上で姿勢を変えても、重さは変わらないことなど、発展して考える内容で、既習事項と結び付けられていない。
高学年	第５学年	・「電気のはたらき」では、回路の開閉、電池のつなぎ方についての理解が若干低い。 ・日常の科学的事象を、理科的に既習内容に結びつけることが苦手である。	・「水のすがた」では、ペットボトルを凍らせたとき、膨れて変形した理由を説明することが難しい。 ・「雨水のゆくえと地面の様子」では、ねらっている実験結果を導くための実験操作について考えられていない。	・「１年間の植物の成長」では植物の観察に対し、主体的に学習に取り組んでいたことが分かる。 ・「天気のようすと気温」では、自然事象の観察を意欲的に行っていたことが伺える。 ・「水のすがた」では、水の状態変化が日常にどのように表れているか等、既習内容と自然事象をつなげられていない。
	第６学年	・目標値、区、全国の平均正答率を下回った。 ・日本付近を通過する台風進路の理解に課題。 ・子宮内の子どもと胎盤をつなぐ部分の名称が定着していない。 ・顕微鏡の倍率の求め方が身に付いていない。 ・質量保存についての理解に課題がある。	・目標値、区、全国の平均正答率を下回った。 ・発芽するために空気が必要かどうかを確かめる実験比較、検討に課題がある。 ・グラフから、水の温度を上げた時の食塩とミョウバンの溶解度の変化を読み取ることができない。	・目標値、区よりは上回ったものの全国の平均正答率より下回った。 ・かえったばかりのメダカがどのようにして養分を得るか説明できる。 ・ヨウ素でんぷん反応の結果から、種子の養分が発芽に使われたことを説明できる。

３　授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第３学年	・ICT 器機を用いた視覚的な教材やドリルパークを活用することで、児童が意欲をもちながら知識の定着を図ることができるようにする。	・問題、予想、予想理由、観察・実験計画、観察・実験、結果、考察、結論の学習過程を行い、科学的・論理的に考えられるようにする。	・比較する活動を通して、児童の気付きや思いから問題を見出し、話合い活動を取り入れて問題解決できるようにする。
	第４学年	・教科書に出てくる用語を使って、その課題のまとめを行い、知識・理解へと結び付ける。	・既習事項を生かして予想したり、絵や図を使ったりして分かりやすく考察をまとめさせ、思考力を高められるようにする。	・導入時に科学的事象が実感できる体験的な活動を行うなど関心や意欲を高め、児童の問題意識を主とした学習活動を行う。 ・既習内容を生活との関わりの中で見直し、実感の伴う学習活動を展開する。
高学年	第５学年	・教科書に出てくる用語を使って、その課題のまとめを行い、知識・理解の定着を図る。 ・実験や観察で、正しく記録する方法を児童自身に考えさせることで、方法や観察の方法を定着させる。	・既習事項を生かして予想したり、絵や図を使ったりして根拠を明確にして考察をまとめさせ、表現する学習活動を設定する。 ・実験や観察で、ねらう結果を導き出すための方法を考えさせることで、自然事象を論理的に考えることを定着させる。	・個々が教科の「見方・考え方」を発揮できるよう、「見方・考え方」の把握、そして、振り返りの仕方を適宜指導していく。 ・振り返りを行うことで、個々が主体的に次時のめあてを立て、自らの学習を俯瞰して見ることができるようにする。 ・振り返りの観点を明確にすることで、自らの学習状況にあった学習を取り組む手立てとする。
	第６学年	・ICT 機器を用いて、実験方法を確認し、基本的な実験や観察を正しく行えるようにする。 ・用語を正しく理解し、覚え、使えるように指導する。	・条件を制御する考え方を働かせ予想を基に、解決の方法を考えさせる。 ・実験や観察の過程や結果を記録する方法を工夫し、定着を図る。 ・得られた結果を考察する視点を与え、適切に考えられるようにする。	・導入時に日常生活と結び付け、科学的事象に興味をもたせるようにする。 ・得られた結果を考察する際、友だちと考えを交流し理解を深める場面を増やす。

外　国　語　科

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

・チャンツやゲーム、フラッシュカードを活用して発声したり確認したりするなどの活動を通して、外国語に親しもうとする態度の育成が図れた。また、自分から進んで外国語を発声しようとする児童が増えた。

（2）課題

・態度の育成が図れたものの、外国語学習に積極的に向かう児童とただ取り組んでいる児童とで二極化している。また、アルファベットの大文字と小文字について正しく書けない児童が一定数いる。

2　授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第3学年	・外国語の発音やリズムを習得できるように、外国語の歌やチャンツを聞いたり声に出したりする。	・ジェスチャーや表情で伝えられるように、単語に合った絵や写真、動画を用いる。 ・相手の言葉に反応を返す言葉を「リアクションワード」として、授業内で繰り返し扱う。	・外国語を使ったコミュニケーションが図れるように、色や動物、数字など日頃よく使う名前を用いた場面を設定し、友達とゲームをしたりコミュニケーションをとったりする活動を取り入れる。
	第4学年	・英語特有のリズムやイントネーションを体得できるように、英語で歌ったりチャンツをしたりする。	・基本的な表現の意味の手がかりになるように、顔の表情や身振りを大きくしたり、イラストや写真を用いたりする。	・主体的に外国語でコミュニケーションが図れるように、身近な場面を設定し、友達や ALT と尋ねたり答えたりする活動を多く取り入れる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	第５学年	・学習課題が必要となる場の設定を工夫し、楽しみながら知識・技能が習得できるようにする。 ・日常生活でよく使う英単語をフラッシュカードなど用いることで、意味の理解や発音を習得させるようにする。	・教科書に出てくる単語とその意味を表すイラストをつなぎ合わせることで、学習内容に対する理解を深める。 ・日常生活の対話の場面を友達との交流を通して、繰り返し用いることで会話を聞いて、内容や状況を推測する活動を取り入れる。	・チャンツやゲームを適宜取り入れ、誰もが楽しみ、児童が主体的に活動できる授業で行っていく。 ・英単語の発音とその語を用いた英作文をセットで学習することで、日常で使う場を想像し、効果的に学習できるようにする。
	第６学年	・アルファベットの歌やプリントなどを用いて理解を深めていく。 ・日常生活の対話の場面を聞く学習を多く取り入れ、どんな言葉が聞こえたか、英単語から意味や状況を推測することに慣れさせる。	・ものの場所を表す単語とその意味を、イラストなどを用いて理解を深めていく。 ・日常生活の対話の場面を聞き、どんな言葉が聞こえたか、英単語から意味や状況を推測する活動を取り入れる。	・簡単なゲームを取り入れ、誰もが楽しく参加できるようなものを授業で行っていく。 ・英単語で発音していくだけでなく、英作文で１セットになるようにしていく。

生　活　科

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

・限られた校内環境の中ではあるが、アサガオやミニトマトを育て，植物を大切にする心情が育ち観察することができた。

・学校探検は１年生を２年生が案内することができなかったが、１年生が教職員と交流する活動に変え，自主的に学校探検をして校内の身近な施設について学ぶことができた。

・まち探検は、保護者の協力も得て児童の自発的な調べ学習を進めることができた。

（2）課題

・コロナ禍で交流学習に限りがあり，例年のような調べ学習が十分にできなかった。引き続き自分の学校地域への愛着を育てていくことが必要である。

・自分の成長を振り返り，見守られ愛情をもって育てられたことに気付くこと，感謝する気持ちをもつこと，今後の目標や希望を持ったりすることが十分とはいえない。

2　授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・多くの気付きをもたせるために、体験活動やタブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を取り入れる。	・ペア学習や全体での発表の場を多く取り入れることで、友達の考えや気付きを知る。	・良い気付きをしている児童を取り上げて価値づけ、学んだことを他教科や生活に生かす。
	第2学年	・ミニトマトの栽培活動を通して、成長の様子を自発的に気付けるようにする。 ・学校のまわりの公共・まちの施設見学を行い、人との関りを大切にする姿勢を育てる。 ・タブレット端末や図書を活用した調べ学習の機会を多く取り入れ、自分で課題を解決する力を育てる。	・活動の楽しさを味わうとともに、自分の気付きを具体的に表現する活動を通して、相手に分かりやすく伝えられるように表現力を高める。 ・小グループでの話合いや発表会など、友達と交流することで、相手の考えの良いところや自分の考えを深められるようにする。	・活動の過程をきめ細かく見取り、つぶやきや発言、思いをもつことを称賛して価値づけ、自分自身の成長を実感させ、意欲的に取り組む態度を養う。

音　楽　科

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

- 音楽を聴き、感じたことや気付いたことを自分の言葉で表現することができるようになってきた。
- 旋律の特徴を生かした音色になるように、練習時に言葉で特徴を表現させてから音楽での表現へとつなげることで、旋律の特徴を生かした表現ができるようになってきた。

（2）課題

- 感染症対策で歌唱や器楽を十分に行っていなかったため、積極的に活動を進めていくこと　ができない児童がいる。
- 創意工夫を自ら考え、演奏に生かすことが難しい児童がいる。

2　授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・リズム感覚を身に付ける。そのために、リズム譜を見ながらリズム打ちをする。様々な楽器の音色の特徴をとらえられるよう活動時間を十分に確保する。 ・身体表現を使うなどしながら階名の摸唱や暗唱に取り組む。音の高さや速さを感じ取りながら歌ったり演奏したりできるようにする。	・曲想を考えて、曲想に合わせて歌い方やリズムを工夫して歌ったり演奏したりする。そのために拍のまとまりや拍子の違いを感じ取らせ、音学的感覚を身に付ける。 ・音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり、友達の演奏を聴いたりする。	・楽器に親しんで演奏する活動を多く設定する。情豊かに表現したり想像力を広げたりしながら、鑑賞できるようにしたりすることで、興味をもって、進んで学習に取り組む。
	第2学年	・体でリズムを感じ取り、拍の流れに乗って身体表現をしたり、簡単なリズムフレーズを作ったりすることができるようにする。 ・音の高低を感じ取りながら、歌ったり演奏したりできるように、身体表現を使うなどしながら階名の摸唱や暗唱に取り組めるようにする。	・音楽を聴いたり表現したりして、拍の流れを感じ取り、音楽的感覚を育てるようにする。 ・拍のまとまりや拍子の違いを感じ取るために、音楽に合わせて体を動かしながら歌ったり、友達の演奏を聴いたりする態度を育てる。	・鑑賞の機会を増やし、表現を豊かにし、想像力を広げる。 ・楽器に親しんで演奏する機会を多く設け、興味をもって、進んで学習に取り組む姿勢を育てる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	・基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や動作化を重視した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 ・旋律の特徴を理解し、どのようにしたら特徴を生かした音色になるのかを考え、取り組ませる。	・授業内の発表の中で友達の工夫や表現のよさに気付かせる。 ・音楽の特徴と気持ちを表すことばを関連付けて音楽を聴けるようにする。	・学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 ・題材と生活体験を関連させ、興味・関心を広げていく。 ・クラス内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。
高学年	・基礎的な奏法に時間をかけて指導し、視覚支援や動作化を重視した指導をスモールステップで設定し、基本の定着を図る。 ・音の重なりを中心に、その特徴を生かした音色になるように考え、取り組ませる。	・授業内の発表の中で友達の工夫や表現のよさに気付かせる。 ・音楽の特徴や気持ちを表すことばの中から自分で要素を選択した上で、演奏の工夫を考えさせるようにする。	・学習の流れを明確にし、見通しをもって学習できるようにする。 ・題材と生活体験を関連させ、興味・関心を広げていく。 ・クラス内で発表する機会を設け、目標を設定させることで活動意欲の向上を図る。

図画工作科

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

・道具の正しい使い方について、ICT 機器を活用して作業している手元や動画を見せたり、黒板に掲示したりして、繰り返し確認し、道具を安全に使って活動に臨む姿勢を育むことができた。

・ICT 機器を活用して、自分の作品について記録を残したり、まとめたりすることで、お互いの頑張りを振り返ることができ、表現活動に進んで取り組むきっかけにつながった。

（2）課題

・導入・鑑賞場面において、発言をする児童が一定になってしまった。全体で主体性をもって取り組める場面を増やしたい。

・高学年に上がるにつれ、自分の表現や作品に自信をもつことが難しく、表現への意欲が低下してしまう場面が見られる。

2　授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・自分の思いや考えをのびのびと表現するために、身近な材料や道具の特徴をよく知り、使い方に慣れるようにする。 ・友達の作品を鑑賞したり表現活動を見合う場を設けたりすることで、作品のよさや工夫を見つける。	・身近な生活経験を想起できるような題材を設定したり、デジタル教科書や図書を活用して導入を工夫したりすることで、自分が表現したいことを見つけ、作品作りに取り組む。	・よりよい作品に仕上げようとする態度を育てる。そのために、作品の良さや工夫を取り上げ、共有する。また、教師が声をかけて助言や価値付けをしたり、身近な題材や材料を取り入れたりする。
	第2学年	・身近で扱いやすい材料や用具に十分になれさせ、表現したいことに生かせるように場面を設定する。 ・友達の作品や表現活動を見ることで、互いの良さや工夫を見つけられるように視点をいくつか提示する。	・感じたこと、想像したこと、見たことの中から表したいことを見つけられるように、ワークシートを工夫したり話合い活動を設定したりする。 ・作品などに対する見方や感じ方を深められるように鑑賞活動を設定する。	・試したり、やり直したりできる場や表現方法を工夫して楽しみながら表現活動に取り組める活動の場を数多く設定する。 ・他教科や本校７０周年記念などと関連させた題材を選び、工夫する。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	・様々な材料や用具を経験することのできる題材を設定する。また、材料や用具の正しい使い方についてしっかり指導し、児童が表したいことに合わせて工夫して活用できるようにしていく。	・導入時の資料掲示や対話、机間指導における発想のよさを認める声がけを通して、児童が発想を自由に広げやすい場づくりに取り組む。 ・ICT 器機を活用し、身近にある作品の鑑賞活動の機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	・教師と児童、児童同士の対話、写真などの資料によって授業の導入を行い、進んで活動に取り組もうとする態度を育む。 ・机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声がけをする。
高学年	・前学年までの材料や用具を活用し、児童が工夫して表現活動に臨めるような場づくりや題材の設定。	・導入時の資料掲示や対話、机間指導における発想のよさを認める声がけを通して、児童が発想を自由に広げやすい場づくりに取り組む。 ・ICT 機器を活用し、親しみのある作品の鑑賞活動の機会を増やし、児童が自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。	・教師と児童、児童同士の対話、写真などの資料によって授業の導入を行い、主体的に活動に取り組もうとする態度を育む。 ・机間指導において、児童の発想や表現のよさを認める声がけをする。

家　庭　科

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

・体験や実習を取り入れることで、児童の意欲・関心を高めることができた。
・ソーイングで手元を映すなど、効果的にＩＣＴ機器を活用することができた。
・発表や交流をする活動の場をつくり、いろいろな考えを共有することができた。

（2）課題

・裁縫は器用さによる進度や意欲の差が大きく、その結果が苦手意識に繋がりやすい。
・調理分野については感染症対策の影響で、知識や技術を習得することが難しい。
・授業での調べ学習ではＩＣＴ機器を活用できたが、家庭学習作業でのＩＣＴ器機活用は少ない。

2　授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高学年	・基本的な縫い方の理解のために、動画や大きな模型を使い、やり方を提示する。 ・調理や裁縫の基本的な技術を実習で習得させ、それを活用して行う作業や実習をできるだけ取り入れる。	・実習の後で振り返りを行い、次回にどう生かすか考える機会をつくる。 ・児童同士の教え合いや作品発表会で友達の作品の良さに気付かせる。 ・製作実習で自分なりの創意工夫ができる題材を取り入れる。	・計画を立て、見通しをもつ時間を設定してから実習や活動をする。 ・家庭での調査や取り組みを増やし評価してもらうこと自主的な取り組みを促す。 ・意欲をもって体験的に学ぶことのできる活動を工夫する。

体　育　科

1　昨年度の授業改善推進プランの検証

（1）成果

・いろいろな動きが経験できるよう、めあてや技能に応じた様々な場を用意することで、児童一人ひとりのつまずきを解消することができた。

・良い動きをしている児童や運動の工夫・考えを紹介する時間（シェアリング）を毎時間取ることによって、互いに動きや技のポイントを見合い、学びの質や運動技能の向上につながった。

・学習カードを効果的に活用することで、個人のめあてをもち、目標に向かって学習に取り組む姿が見られた。

（2）課題

・コロナウイルス感染症対策の影響により、多くの児童の体力低下が、学習や生活の中でうかがえる。技能面での個人差が昨年度に引き続き見られる。

・児童同士で運動を見合い、考えを伝え合うことが難しい児童もいる。どこに着目すれば良いか、動きのポイントを的確にとらえさせる必要がある。

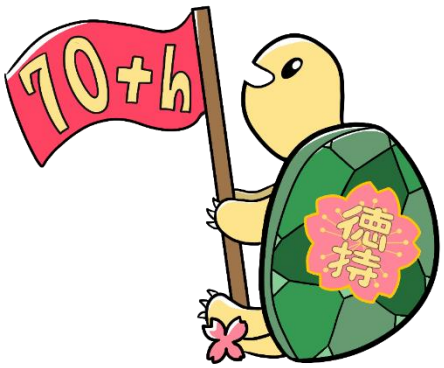
・適切に自己のめあてを設定することが難しい児童もいる。運動の場や学習活動の改善が必要である。

2　授業改善のポイント（観点別）

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
低学年	第1学年	・基本的な動きを身に付けるために、誰もが楽しめる場の設定を工夫し、様々な運動経験をさせる。	・良い動きを共有する時間を設定することで、友達の良い動きに気付かせる。	・全員が楽しみ、達成感を味わうために、誰もが楽しめるルールを工夫したり、遊びの要素を取り入れたりする。
	第2学年	・誰もが楽しめる工夫を行い、一人ひとりが達成感を味わえるようにする。 ・楽しみながら様々な運動経験をさせ、基本的な動きを身に付けるようにする。	・児童の良い動きや工夫・考えを共有する時間を取り入れ、意欲的にまねしていこうという意識を育て、良い動きを広めていく。 ・いろいろな動きやゲームを通して、心身のコントロールがうまくできるようにする。	・運動遊びにゲーム性を持たせ、意欲的にいろいろな動きが体験できるようにする。 ・友達と関わる機会を多く設けて、誰とでも仲良く活動する楽しさを味わわせ、積極的に運動遊びに取り組む姿勢を育てる。

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学年	第3学年	・運動技能に個人差が見られるため、スモールステップで取り組むことができる場を多く設ける。	・児童同士で運動を見合ったり、考えを共有しあったりする時間を確保する。 ・ICT 機器を活用して、自分の課題を見つけることができるようにする。	・きまりを意識して取り組むことができるように、視覚的に提示する。 ・見通しをもって学習に取り組むことができるように、学習の流れを伝える。
	第4学年	・児童のつまずきに対する場を準備して、課題解決の時間を十分確保する。	・運動のポイントを意識した指導や助言をする。また、必要であれば掲示物を用意し、児童が自分でポイントを考えたり、確認したりできるようにする。	・毎時間シェアリングの時間を設け、友達の考えを聞いて新しい動きに挑戦したり、ポイントを意識して取り組んだりする時間を設定する。
高学年	第5学年	・ICT 機器を活用して、児童が自らの動きを見ることで、自らの欠点を把握し、高めたい技能を主体的に高めることができるような場や資料を設定する。	・友達と交流することで、自らの考えを伝えたり、アドバイスをもらったりと協働して学習に取り組むように、交流の時間を十分に設定する。	・個々が教科の「見方・考え方」を発揮できるよう、「見方・考え方」の把握、そして、振り返りの仕方を適宜指導していく。 ・振り返りを行うことで、個々が主体的に次時のめあてを立て、自らの学習を俯瞰して見ることができるようにする。
	第6学年	・運動のポイントを認識して改善・向上できるよう、運動の時間を十分に確保する。 ・ICT 器機を活用し、手本となる動きや自分の動きが客観的に見られるように場を工夫する。	・児童が見つけた運動のポイントを記入できる掲示物を作成する。それをもとに児童が自分でポイントを考えたり、確認したりできるようにする。	・決まりを守り、協力しながら準備や片付けを行う姿勢を養う。また、児童たちが主体的に運動に取り組めるような場を設定したり、友達の動きを見合い、アドバイスし合う時間を設けたりする。

Tokumochi elementary school



70th Since 1952